

日本気象学会 1994年度春季大会

会期：1994年5月24日（火）、25日（水）、26日（木）

会場：お茶の水スクエア

〒101 東京都千代田区神田駿河台1-6

（電話 03-3294-3131 Fax. 03-3294-2472）

受付：A会場前フロアー（お茶の水スクエアC館3階）

目次

会場案内	169
大会行事予定表	170
シンポジウム内容	171
研究発表題目	172~182

会場案内図



1994年度春季大会行事予定

1. 会場：お茶の水スクエア（電話03-3294-3131, Fax. 03-3294-2472）

A会場：C館3階 ホール	ポスター会場：C館3階 ホール
B会場：C館3階 8号室	
C会場：C館3階 12号室	シンポジウム：C館3階 ホール
D会場：A館1階 ルーム6	懇親会：地下 メンバーズ1

2. 会期：1994年5月24日（火）、25日（水）、26日（木）

() は講演数（第1種～第2種と講演番号）、— は座長

		A会場	B会場	C会場	D会場
5月24日 （火）	09:30～ 12:00	放射 (9-0, A101～A109) —山本 哲— 極域の物質循環と気候システム (4-2, A110～A115) —山崎孝治—	数十年スケール変動 (9-1, B101～B110) —山元龍三郎— 熱帯大気 (6-0, B111～B116) —上野 充—	気象力学 (5-6, C101～C111) —金久博忠—	降雪雲・大気電気 (11-3, D101～D114) —和田 誠—
	13:30～ 16:00	極域の物質循環と気候システム (13-2, A151～A165) —阿部彩子— —山内 恭—	熱帯大気 (1-1, B151～B152) —上野 充— TOGA-COARE (7-4, B153～B163) —城岡竜一—	気象力学 (3-3, C151～C156) —竹広真一— 中層大気 (2-3, C157～C161) —村山泰啓—	降雪雲・大気電気 (3-0, D151～D153) —和田 誠— シビアストーム・メソ予報 (11-1, D154～D165) —楠 研一—
	16:10～ 17:30	ポスター・セッション（A会場で概要紹介後、講演）			
5月25日 （水）	09:00～ 11:30	大気陸面相互作用 (11-3, A201～A214) —三枝信子—	熱帯波動 (9-4, B201～B213) —余田成男—	大気化学・物質輸送 (7-2, C201～C209) —町田敏暢—	雲物理・メソ対流系 (9-5, D201～D214) —榊原 均—
	13:00～ 14:50	シンポジウム 酸性雨—地球環境問題として— 司会：藤田慎一、講演：原 宏、井川 学、佐藤純次			
	15:00～ 17:00	総会・学会賞・藤原賞授与 学会賞・藤原賞記念講演			
	17:30～ 19:30	懇親会			
5月26日 （木）	09:00～ 12:00	年々変動 (8-1, A301～A309) —栗原弘一— モンスーン (7-1, A310～A317) —萬納寺信崇—	境界層 (16-1, B301～B317) —近藤裕昭— —神田 学—	エアロゾルⅠ (9-3, C301～C312) —秋吉英治— エアロゾルⅡ (6-0, C313～C318) —古賀聖治—	メソ擾乱 (19-1, D301～D320) —上田 博—
	13:30～ 16:30	気候モデル (7-3, A351～A360) —岩崎俊樹— 大循環・総観規模現象 (5-3, A361～A368) —小出 孝—	境界層 (14-2, B351～B366) —高橋俊二— —島貫 陸— 気象教育 (2-0, B367～B368) —島貫 陸—	エアロゾルⅡ (3-4, C351～C357) —古賀聖治— オゾン (6-3, C358～C366) —柴崎和夫—	観測手法・測器 (7-2, D351～D359) —菲澤 浩— 衛星マイクロ波データ利用 (7-1, D360～D367) —中澤哲夫—

発表件数 318件（第1種講演236, 第2種講演65, ポスター17）

講演者へのお願い 講演・質疑時間は、第1種講演は5分と2分、第2種講演は10分と5分です。

スライドを使う場合は、マウントに番号をつけ、上下をそろえて各会場の係員に提出して下さい。

大会参加費：郵便振替による前納の場合 一般会員 2,000円、学生会員 1,000円、非会員 2,500円；

当日受付の場合は 一般会員・非会員 2,500円、学生会員 1,500円。

懇親会費：郵便振替による前納の場合 一般会員 4,500円、学生会員 4,500円；当日受付の場合 一般会員 5,000円、学生会員 4,500円
なお、郵便振替用紙は「天気」1月号の末尾に挿入されたものを使い、5月13日までに振り込んで下さい。

総会

日時 大会第2日(5月25日) 15:00~
会場 A会場(C館3階ホール)

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 学会賞授与
5. 藤原賞授与
6. 1993年度事業経過報告
7. 1993年度会計決算報告
8. 1993年度監査報告
9. 定款の一部改正について
10. 第28期日本気象学会役員選任について
11. 1994年度事業計画案審議
12. 1994年度予算案審議
13. 閉会の辞

総会に引き続き学会賞および藤原賞受賞記念講演を行う。

シンポジウム

酸性雨—地球環境問題として—

1. 日時 大会第2日(5月25日) 13:00~14:50
2. 会場 A会場(C館3階ホール)
3. 司会 藤田慎一(電力中研)
4. 講演
原 宏(公衆衛生院):酸性雨とは一定義とその生成機構
井川 学(神奈川大):酸性霧と森林衰退
佐藤純次(気研・応用):酸性雨と輸送モデル
シンポジウムの趣旨については「天気」2月号p.77参照。

秋季大会の予告

1994年度秋季大会は、10月18日(火)~20日(木)に九州大学メインキャンパス(福岡市東区箱崎)で開催されます。全体行事は19日午後に行われ、シンポジウムは「熱帯・東アジア域の豪雨」が計画されています。大会告示は「天気」5月号に掲載します。講演申込締切は8月後半を予定しています。

今回から、スペシャル・セッションの実施要領を、世話人ト講演企画委員会の協議のもとに講演種目の幅を広げる方向で改定しました。これにより、次回からスペシャル・セッションの申込締切日は一般講演よりも数日早くなり、申込時には予稿のコピーを世話人にも送付して頂くこととなります(「天気」2月号参照)。すでに「西日本の気象災害」をテーマとするスペシャル・セッションが計画されていますが、これ以外のテーマも歓迎します。

研究会のお知らせ

大会に合わせて下記の研究会が行われます。興味のある方はご自由にご参加下さい。

第6回メソ気象研究会

日時: 5月27日(金) 13:00~17:00
場所: 気象庁内の予定(大会会場に掲示)
テーマ: メソ気象と境界層
コンピーナー: 木村富士男(東北大・理)
プログラムは「天気」2月号に掲載

極域研究連絡会

日時: 5月24日(火) 18:00~20:00
場所: 大会会場(詳細は当日掲示)
テーマ: これからの南極・北極研究、観測(2)
世話人: 山内 恭(極地研), 阿部彩子(東大・気候システム)

気候コロキウム&都市気候研究会

日時: 5月28日(土) 14:30~18:00
場所: 東大・先端研 2号館101講堂
世話人: 一ノ瀬俊明(東大・先端研)
詳細は大会会場に掲示

IGBP/GAIRM研究会

日時: 5月23日(月) 13:00~17:00
場所: 気象庁第1会議室(5階)
世話人: 及川武久(筑波大・生物科学), 木田秀次(京大・理)
プログラムは「天気」4月号に掲載予定

オゾン研究連絡会

日時: 5月26日(木) 18:00~
場所: 大会会場の予定(詳細は当日掲示)
責任者: 川平浩二(富山高専)
プログラムは「天気」3月号に掲載

大気-海洋相互作用研究会

日時: 5月23日(月) 13:00~17:00
場所: 気象庁内の予定
テーマ: 大気・海洋のinterdecadal scaleの変動
連絡先: 花輪公雄(東北大・理)
プログラムは「天気」3月号に掲載

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

大会第1日〔5月24日〕 09:30~12:00

(は第2種講演を, は講演者を表す. [S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

A会場

放射

座長: 山本 哲 (気研・応用)

- A101 塩原匡貴 (気研・気候), 上野丈夫 (高層気象台): PIR型赤外放射計のドーム係数の決定方法の改良の試み
- A102 高村民雄 (防大・地球), 小林隆久 (気研・衛星), 鳥谷均 (防大・地球): 都市域での上向き赤外放射と地表面温度分布の観測
- A103 山本 哲・里村雄彦 (気研・応用): 非静力学モデルへの放射スキームの導入
- A104 深堀正志・青木忠生・青木輝夫 (気研・物理), 鈴木 睦 (国立環境研), 森山 隆 (宇宙開発事業団), 石田英之・渡辺 猛 (東レリサーチ): CO₂1.6μm吸収帯の吸収線強度の測定
- A105 今須良一・水野建樹 (資源環境研), 松野太郎 (東大・気候システム): 代替フロン物質の温室効果ポテンシャル(GWP)評価に関する研究
- A106 真野裕三 (気研・気候): 有限雲群の短波放射特性のパラメタリゼーション
- A107 真野裕三 (気研・気候): 円盤状氷晶からなる巻雲の赤外放射特性
- A108 落合 治 (北大・環境), 菊地勝弘・遊馬芳雄 (北大・理), 田中正之・早坂忠裕・菊地信行 (東北大・理), 武田喬男・藤吉康志・石坂 隆 (名大・水圏研): 層積雲の構造とその放射特性(3)
- A109 内山明博・深堀正志・塩原匡貴・浅野正二 (気研): 雲放射スペクトル測定装置の開発

極域の物質循環と気候システム

座長: 山崎孝治 (気研・気候)

- A110 神沢 博 (国立環境研), 近藤 豊 (名大・STE研), 笹野泰弘 (国立環境研): 極域成層圏のオゾンその他の微量物質循環観測計画について: ADEOS/ILAS衛星観測を中心として
- A111 岩崎俊樹 (気象庁・数値予報): 極域下部成層圏の下降流の季節変化について
- A112 池田親信・塩谷雅人・廣田 勇 (京大・理): 惑星規模・総観規模のオゾン変動とその力学場との関係
- A113 山内 恭 (極地研): 南極域における雲の放射収支に対する役割
- A114 T. Ohtake (アラスカ大), 岡田菊夫 (気研・応用): 南極点の硫酸エアロゾル粒子は冬には無くなる
- A115 仲山智子・福田正己 (北大・低温研): シベリアのツンドラ湿地におけるメタンフラックスの測定結果

B会場

数十年スケール変動

座長: 山元龍三郎 (気象協会)

- B101 三上岳彦 (都立大・理), P. D. Jones, K. R. Briffa (Univ. East Anglia): 北半球における1980~90年代温暖期の気候変動(その1)
- B102 川村隆一・杉 正人 (防災科研), 佐藤信夫 (気象庁・数値予報): 北半球中高緯度大気10年スケールの変動の季節性 — 気象庁全球モデルによる再現 —
- B103 佐藤康雄 (気研・応用): 広域海水分布変動と大気変動との相関解析 (I)
- B104 森 広道 (気象庁・高層): カスピ海の水位変動について
- B105 SANGA-N.K., 福山 薫 (三重大): アフリカザイール川流域における過去30年間の気候変動 1. 相対湿度の長期的減少
- B106 松山 洋・可知美佐子・新田 勲 (東大・気候システム), 篠田雅人 (都立大・理): コンゴ川の流量の経年変動とサヘルの降水量の長期減少傾向との関連
- B107 篠田雅人・渡部雅浩 (都立大・理), 川村隆一 (防災科研): インド洋海面温度の上昇傾向とアジア・アフリカモンスーン
- B108 渡部雅浩・篠田雅人 (都立大・理): アジアモンスーンの長期変動と海面温度
- B109 鬼頭昭雄 (気研・気候): インド洋海面水温の最近の上昇 — その大気への影響の数値実験
- B110 可知美佐子・新田 勲 (東大・気候システム): 熱帯域降水量の長期変動

熱帯大気

座長: 上野 充 (気象庁・数値予報)

- B111 大津聡子・安成哲三・富田智彦 (筑波大・地球): 赤道太平洋における海上風と海面水温の季節内変動のENSOサイクルとの関係
- B112 朴 尚錫・石島 英 (琉大): 台風経路および強度の発生域との関連に関する気候学的研究
- B113 山田真吾・大西晴夫 (気象庁・予報): 北西太平洋における台風発生数・接近数とENSO及びQBOの関係について
- B114 杉 正人 (防災科研), 佐藤信夫 (気象庁・数値予報): 気象庁全球モデルを高解能大気循環モデルとして用いてシミュレートされた台風(3)
- B115 露木 義・若山郁生 (気象庁・数値予報): 高解像度全球モデルを用いた台風の進路予報
- B116 山崎信雄・村上勝人 (気研・台風): スーパークラスタースケールでのエネルギー収支の計算 — 解析のまとめ —

大会第1日〔5月24日〕 09:30～12:00

(____は第2種講演を, _____は講演者を表す. [S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

C会場

D会場

気象力学

座長: 金久博忠(気研・予報)

- C101 玉木克美・宇加治一雄(福岡大・理): オープン・シリンドラ型回転水槽で観測される傾圧波動
- C102 宇加治一雄・玉木克美(福岡大・理): オープン・シリンドラ型の回転水槽で観測される傾圧波動の数値シミュレーション
- C103 石岡圭一・余田成男(京大・理): 極渦のバシレーションとそれに伴う物質輸送
- C104 野沢 徹・余田成男(京大・理): 回転球面上の強制2次元乱流の形態 — 自転角速度依存性 —
- C105 竹広真一・林 祥介(東大・理): 回転球殻のブジネスク対流 — 赤道加速に関する考察
- C106 山本 勝・田中 浩(名大・水圏研): 金星四日循環とケルビン波の相互作用について
- C107 松田佳久(東大・理): ゆっくり回転する惑星大気の移動する熱源に対する線型応答
- C108 石渡正樹・林 祥介(東大・理): 暴走温室状態の数値実験
- C109 田中 博・福富慶樹(筑波大・地球): 鉛直スペクトル法による傾圧不安定問題の解法とその問題点について
- C110 赤堀浩司・向川 均(気大): 最適励起擾乱に対するエクマン摩擦の作用
- C111 高野清治・前田修平・小出 寛・工藤達也(気象庁・長期予報), 露木 義(気象庁・数値予報), 山田真吾(気象庁・予報): 気象庁全球モデルによる1か月予報実験 — 最適モード法によるアンサンブル予報 —

降雪雲・大気電気

座長: 和田 誠(極地研)

- D101 山下 晃(大阪教育大): カナダ北極圏における雪結晶及び氷晶の観測[S]
- D102 高橋廣哉(北海道教育大), 遠藤辰雄(北大・低温研): 樹枝状雪結晶の雲粒捕捉実験
- D103 梶川正弘(秋田大・教育), 岩波 越(防災科研・長岡), 松尾敬世(気研・物理): 雪片の構成結晶形からみた対流性降雪雲の諸特性(3)
- D104 山田芳則・松尾敬世・村上正隆・水野 量・神原 均(気研): 大規模な取束場に出現したバンド状降雪雲内の気流構造
- D105 水野 量・松尾敬世・村上正隆・山田芳則(気研・物理), 梶川正弘(秋田大・教育): マイクロ波放射計によって観測された対流性降雪雲の雲水量
- D106 岩波 越(防災科研・長岡), 梶川正弘(秋田大・教育), 松尾敬世(気研・物理), 真木雅之(防災科研): 上空を通過した降雪雲のドップラーレーダー観測
- D107 村上正隆・山田芳則・松尾敬世(気研・物理), J.Marwitz, G.Gordon(ワイオミング大), 岩波 越(防災科研・長岡): 筋状降雪雲の内部構造
- D108 吉本直弘・藤吉康志・三隅良平・越田智喜・武田喬男(名大・水圏研), 岩崎博之(気研・台風), 「都市豪雪」観測グループ: メソスケールの大気環境の変化による筋状雲を構成するレーダエコーの構造の変化
- D109 遊馬芳雄・菊地勝弘・上田 博(北大・理): 冬期日本海上での降水雲の形態と低気圧性循環の位置関係について
- D110 藤吉康志・藤田岳人・武田喬男(名大・水圏研), 小尻利治・寶 馨・池田繁樹(岐阜大・工): 複雑山岳地形が風下の降雪分布に及ぼす効果 — 濃尾平野を例として —
- D111 中森健一・鈴木賢士・織田真之・高橋 劭(九大・理), 園井康夫(関西電力): 北陸雪雲内での霰電荷符号の -10°C 層での逆転 — ヒデオゾンデ(PPIS)観測
- D112 小林文明・内藤玄一(防大・地球): 海岸域における大気下層の変化と冬季雷雲の発達(3) — 季節風に対抗する下層気流の特徴 —
- D113 道本光一郎・小滝 昇(防大・地球), 河崎善一郎(大阪大・工), 松井敏明(関西電力), 長屋勝博・長田正嗣(日本無線): 3次元レーダエコーの時間変化とSAFIRで捕捉された冬季雷放電活動との対応
- D114 M. A. Menshov, H. Uyeda, N. Takahashi, H. Kagaya, Y. Asuma, K. Kikuchi(北大・理): An example of vertical structure of winter thunderstorm clouds in Wakasa Bay observed by dual-polarization Doppler radar

大会第1日〔5月24日〕 13:30~16:00

(は第2種講演を, は講演者を表す. [S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

A会場

極域の物質循環と気候システム(つづき)

座長:阿部彩子(東大・気候システム)

- A151 上野健一(筑波大・地球), 矢吹裕伯(名大), 小池俊雄(長岡技術科学大), 張寅生(蘭州水川凍土研):1993年モンスーン期のチベット高原における降水量観測
- A152 遠藤辰雄(北大・低温研), 坪木和久・木村龍治(東大・海洋研), 遊馬芳雄(北大・理), 鳥谷均(防大・地球), 大和政彦(群馬大・教養):カナダ北極圏における寒気形成機構に関する予備調査
- A153 松川芳樹・遊馬芳雄・菊地勝弘(北大・理), 遠藤辰雄(北大・低温研), 坪木和久・木村龍治(東大・海洋研), 鳥谷均(防大・地球):カナダ北極圏ケンブリッジベイにおける寒気の形成過程
- A154 永井智広・内野修・藤本敏文(気研・衛星), 板部敏和・水谷耕平(通信総研), 柴田隆(名大・STE研), D. Wardle(AES), A. Carswell(ヨーク大):カナダ北極圏ユーレカにおける極成層圏雲及び成層圏エアロゾルのライダー観測
- A155 岩坂泰信・柴田隆・林政彦・長谷正博・中田澁・長田和雄(名大・STE研), 藤原玄夫(福岡大・理), 中根英昭(国立環境研):北極圏ライダー観測1993・1994冬期観測の速報[S]
- A156 岡田菊夫・永井智広・藤本敏文・内野修(気研・衛星):カナダ北極圏ユーレカで採集された海塩粒子について
- A157 大和政彦(群馬大・教養), 田中浩(名大・水圏研), 坪木和久・木村龍治(東大・海洋研), 遠藤辰雄(北大・低温研), 遊馬芳雄(北大・理), 山下晃(大阪教育大), 鳥谷均(防大・地球), A. R. Clarke, M. Calvez, R. Gillis(AES):カナダ北極圏大気エアロゾル観測(II)[S]
- A158 河村公隆・春日部英輝・石渡良志・鈴木啓助・江口卓・増田耕一・三上岳彦(都立大・理), 山崎孝治(気研・気候), L. A. Barrie(AES):北極圏(アラート)エアロゾルの化学成分と輸送, 変質過程 1. 水溶性有機物の季節変化
- A159 江口卓・河村公隆・春日部英輝・石渡良志・鈴木啓助・増田耕一・三上岳彦(都立大・理), 山崎孝治(気研・気候), L. A. Barrie(AES):北極圏(アラート)エアロゾルの化学成分と輸送, 変質過程 2. 流跡線解析による起源および輸送過程の評価
- A160 鈴木啓助・河村公隆・春日部英輝・柳瀬彩子・石渡良志・江口卓・増田耕一・三上岳彦(都立大・理), 山崎孝治(気研・気候), L. A. Barrie(AES):北極圏(アラート)エアロゾルの化学成分と輸送, 変質過程 3. Arctic Sunriseにおける無機成分およびMSAの濃度変化

座長:山内恭(極地研)

- A161 五十嵐誠(総合研究大学院大), 神山孝吉・藤井理行・渡辺興垂(極地研):スピッツベルゲンにおける積雪の化学主成分濃度の変動

(次ページに続く)

B会場

熱帯大気(つづき)

座長:上野充(気象庁・数値予報)

- B151 新田勲(東大・気候システム):熱帯海洋域における対流活動の日変化
- B152 T. C. Chen(Iowa State Univ.), 高橋清利・村上勝人(気研・台風):静止衛星データを用いた日変化に対する季節内変動の影響の解析

TOGA-COARE

座長:城岡竜一(北海道農試)

- B153 沖理子(東大・気候システム), 中澤哲夫(気研・台風), 住明正(東大・気候システム):TOGA-COARE領域における毎時の雲移動ベクトルに現われる日変化
- B154 鈴木立郎・竹内謙介・伊藤進一(北大・低温研):西部赤道太平洋における海洋の変動
- B155 牛山朋来・佐藤晋介・遠藤辰雄・竹内謙介(北大・低温研), マヌス観測グループ:西部熱帯太平洋におけるメソスケール降水現象の時空間変動と大規模場との関連
- B156 モハマドタウフィックダーミル・上田博・高橋暢宏・菊地勝弘(北大・理):GMS-IRデータを用いたTOGA-COARE領域の雲の出現頻度について
- B157 M. N. Islam, H. Uyeda, N. Takahashi, O. Kikuchi, K. Kikuchi(北大・理):Behavior of Sub-System of Cloud Clusters in the Tropics during the TOGA-COARE IOP
- B158 安部大介・牛山朋来・佐藤晋介・遠藤辰雄・竹内謙介(北大・低温研), マヌス観測グループ:西部熱帯太平洋, マヌス島の陸上で日射によって発生した積雲対流システムの移動パターンと大気不安定度の関連について
- B159 佐藤芳昭・上田博(北大・理), 吉崎正憲(気研・台風):西太平洋赤道域の積乱雲に関する二次元数値実験(予備実験)
- B160 城岡竜一(北海道農試), 上田博(北大・理), マヌス観測グループ:TOGA-COAREマヌス島での日射量変動
- B161 菊地理・上田博(北大・理), マヌス観測グループ:TOGA-COAREマヌス島レーダー観測(IX)——層状性エコー上に対流性循環をもつクラウドクラスター——
- B162 木下温・上田博(北大・理), マヌス観測グループ:TOGA-COAREマヌス島レーダー観測(X)——dual-Doppler解析によるメソ対流系の内部構造——
- B163 清水収司・上田博・木下温(北大・理), マヌス観測グループ, W. L. Ecklund, K. S. Gage(NOAA):TOGA-COAREマヌス島レーダー観測(XI)——クラウドクラスター内の層状性領域の構造と変化——

大会第1日〔5月24日〕 13:30~16:00

()は第2種講演を, ~は講演者を表す. [S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

C会場

D会場

気象力学(つづき)

座長:竹広真一(東大・理)

- C151 阿部成雄・竹田雅紀(防大): 順圧渦の非線型積分
 C152 金久博忠(気研・予報): 安定成層を持つ一般流の中の重力流
 C153 栗田進(気研・応用): 上部境界条件としての吸収層による非静力内部重力波の反射
 C154 里村雄彦(気研・応用): 風下波による運動量フラックス
 C155 榎本剛・向川均(気大): 一次元QBOモデルにおける周期解の分岐現象
 C156 岩山隆寛(九大・理), 岡本寿夫(高知大・理): 2次元非粘性順圧流体における渦粘性の理論—混合距離理論に対するコメント—

中層大気

座長:村山泰啓(通信総研)

- C157 長澤親生・阿保真(都立大・工): 中間圏圏界面Na層の波状構造の解析(1)
 C158 前川泰之(大阪電通大), 深尾昌一郎・山本衛・山中大・津田敏隆(京大・超高層), R.F.Woodman(ヒカマ観測所): ヒカマルカVHF帯ドップラーレーダーによる上部成層圏内部重力波の鉛直伝搬特性の観測
 C159 荻野慎也・山中大学(京大・超高層), 柴垣佳明(大阪電通大), 下舞豊志・深尾昌一郎(京大・超高層): 下部成層圏領域における風速・温度の鉛直波数スペクトル
 C160 下舞豊志・山中大学・深尾昌一郎(京大・超高層): MUレーダー3週間連続観測結果の鉛直・時間2次元ウェーブレット解析
 C161 三好勉信(九大・理): GCMによる中層大気大循環の数値計算(I)

- A162 阿部彩子(東大・気候システム): グリーンランド氷床の変動要因—水期の記憶は残っているか?—
 A163 叶木律子・田中博(筑波大・地球): 北極海における海水の動向と河川流量との相互作用
 A164 羽角博康・山中康裕(東大・気候システム): 海洋-海水結合モデルの構築—気候システムにおける海水の役割の理解に向けて—
 A165 山中康裕(東大・気候システム), 田近英一(東大・理): 海洋生物化学大循環モデルによる炭素循環の研究(その3)

— 総合討論 —

降雪雲・大気電気(つづき)

座長:和田誠(極地研)

- D151 加賀谷英和・上田博・遊馬芳雄・菊地勝弘(北大・理), 河崎善一郎(大阪大・工), 園井康夫(関西電力): 若狭湾周辺に発生した冬季雷の観測—1993年11月24日の雷雲について—
 D152 井上光則・河崎善一郎・松浦虔士(大阪大・工), 松井敏明・安達幹雄(関西電力): SAFIR観測結果の解析
 D153 井上光則・牛尾知雄・王道洪・河崎善一郎・松浦虔士(大阪大・工): レーザ誘雷野外実験と冬季雷観測[S]

シビアストーム・メソ予報

座長:楠研一(気研・衛星)

- D154 林泰一・光田寧・岩田徹(京大・防災研): 日本の竜巻の統計的性質
 D155 新野宏・藤谷徳之助(気研), 渡部信行(気象庁・統計): 最近33年間の日本の竜巻の特性
 D156 新野宏・楠研一・鈴木修・大野久雄(気研), 横堀誠(茨城県林業試験場): 1992年12月8日茨城県千代田町で発生した竜巻に関する補遺
 D157 横堀誠(茨城県林業試験場): 1992年12月8日・千代田町の竜巻, 南側に平行して新たに確認された別の竜巻とスギ林被害[S]
 D158 大野久雄・鈴木修・楠研一(気研・衛星): 妻沼・百里ダウンバースト日(1990年7月19日)の環境条件
 D159 楠研一・大野久雄・鈴木修(気研・衛星), 小倉義光(東大・海洋研): 水戸ダウンバースト1992年9月4日VI—ドップラーレーダーで見た前兆現象—
 D160 光田寧・板野稔久・竹見哲也(京大・防災研): 1993年5月5日中国北西部で発生した砂嵐について
 D161 岩下晴彦(日本航空): 風の時空変換解析に関する一考察
 D162 小滝晃・遠峰菊郎(防大・地球): 千歳飛行場における地上風の短時間量的予報について
 D163 齊藤和雄(気研・予報): 非静水圧局地モデルによるメソ天気系のシミュレーション(4)—完全圧縮系モデルへの改良と質量仮温位の導入—
 D164 加藤輝之(気研・予報): Box-Lagrangian Rain-Drop Scheme
 D165 柳野健・高田伸一(気象庁・数値予報): ニューラルネットワークによる確率予報・量的予報

大会第2日〔5月25日〕 09:00~11:30

(____は第2種講演を, _____は講演者を表す。[S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

A会場

大気陸面相互作用

座長:三枝信子(筑波大・生物科学)

- A201 神田 学・土屋信夫(山梨大・工):屋外での体感温度予測のための基礎的研究
- A202 三上正男・藤谷徳之助・青木輝夫(気研),張 希明・施志銘(新疆生物土壤沙漠研):タクラマカン砂漠における大気・地表面相互作用の観測(2)
- A203 佐橋 謙・塚本 修(岡山大), J.Wang, Y.Hu(LIPAP), 光田 寧(京大・防災研):砂漠での混合比の鉛直プロフィールの逆転について— 気候学的検討—
- A204 小林哲夫・賀 文君(九大・農):乾燥砂地面からの非等温蒸発の特徴
- A205 近藤純正・徐 健青(東北大・理):乾燥域の水収支— 土壌パラメータの決定
- A206 玉川一郎・光田 寧(京大・防災研):HEIFE砂漠観測点での年間蒸発量の推定
- A207 近藤純正(東北大・理):蒸発量の土壌種類と年降水量への依存性
- A208 江守正多(東大・教養), 光本茂記(国立環境研):地下水流出を扱った裸地面水収支モデルの感度実験
- A209 松島 大・近藤純正(東北大・理):線形熱収支モデルと観測データによる裸地面バルク輸送係数の推定
- A210 文字信貴・鱧谷 憲・奥田純二(大阪府大・農):森林蒸発散の効率を表すパラメータ
- A211 渡辺 力・水谷完治(森林総研):降雨の捕捉・蒸発を考慮した多層キャノピーモデル
- A212 鈴木力英・谷田貝亜紀代・安成哲三(筑波大・地球), 山口智美(筑波大・環境):ユーラシア大陸における植生インデックスと大気の水収支
- A213 二階堂義信(気研・気候):植生1次元モデルの問題点と改良への試み
- A214 森 広道(気象庁・高層):旧ソ連の穀物生産量予測について

B会場

熱帯波動

座長:余田成男(京大・理)

- B201 吉野 義晃・津田敏隆・足立樹泰・橋口浩之・清水 厚・堤雅基・中村卓司・深尾昌一郎(京大・超高層), H.Wiryosumarto(LAPAN), Sri Woro B.H. (BPPT):赤道域におけるNon-Migrating diurnal tidesの観測
- B202 黒田友二・千葉 長(気研・気候):モデルに見いだされた帯状対称潮汐の季節変化について
- B203 塩原将行・高橋正明(東大・気候システム):3次元GCMによるQBOの再現とその解析
- B204 高橋正明(東大・気候システム), 沼口 敦(国立環境研), 熊倉俊郎・塩原将行(東大・気候システム):1/5セクターCCSR・NIES GCMに現れたQBO的な振動について
- B205 堤 雅基・中村卓司・津田敏隆・深尾昌一郎(京大・超高層), R.A.Vincent, I.M.Reid(アデレード大), H.Wiryosumarto(LAPAN), Sri Woro B.H. (BPPT):ジャカルタ流星レーダー(6°S, 107°E)とクリスマス島MFレーダー(2°N, 158°W)による赤道域・中間圏界面領域平均風の共同観測
- B206 丸山健人(気研・予報):2日前後の周期帯の赤道じょう乱のQBO同期変動と年周期変動
- B207 長谷川史裕(京大・理), 佐藤 薫(東大・気候システム), 廣田 勇(京大・理):赤道下部成層圏に卓越する短周期擾乱の解析
- B208 津田敏隆・清水 厚(京大・超高層), Nurzaman A. (LAPAN):インドネシアにおけるケルビン波のラジオゾンデ観測
- B209 西 憲敬(京大・防災研):赤道圏界面付近に局在する東進擾乱
- B210 堀之内 武・余田成男(京大・理):赤道域対流圏での加熱強制による波動の励起の線形解析
- B211 山崎正紀・大内和良(東大・理):ケルビン波のCISK(線形論)
- B212 中島健介(東大・気候システム):wave-CISKとWISHEの卓越スケール(2)
- B213 中島健介(東大・気候システム), 西 憲敬(京大・防災研):一般風に南北分布がある場合のWISHE

大会第2日〔5月25日〕 09:00~11:30

()は第2種講演を, ~~~~~は講演者を表す。[S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

C会場

D会場

大気化学・物質輸送

座長:町田敏暢(国立環境研)

- C201 渡辺幸一・田中 浩(名大・水圏研):名古屋市における大気中の過酸化水素濃度の測定
- C202 塚田 希・田中 浩(名大・水圏研):都市域におけるDMSの濃度変化
- C203 鶴田治雄(農環技研):自動測定装置による大気中 N_2O 濃度の連続測定
- C204 町田敏暢・中澤高清・田中正之(東北大・理), 藤井理行・青木周司・渡辺興亜(極地研):南極H15コアから推定された過去250年間の大気中 CO_2 , CH_4 および N_2O 濃度の変動
- C205 中澤高清・菊池正昭・渡井智則・田中正之(東北大・理), 青木周司・森本真司(極地研), 寄高博行(海上保安庁):海洋中の溶存無機炭素の $\delta^{13}C$ 値の鉛直変化
- C206 青木輝夫・青木忠生・深堀正志・三上正男(気研), 張 希明・施 志銘(新疆生物土壤沙漠研):中国タクラマカン砂漠における大気微量気体のリモートセンシング
- C207 佐々木秀孝・里村雄彦・佐藤純次(気研・応用):JSMを使った長距離輸送モデルの開発
- C208 田口彰一(資源環境研):全球3次元モデルを用いたCFC-11の濃度の試算 削減を考えない場合の結果
- C209 神山武久(筑波大・環境), 二階堂義信・内野 修(気研), 甲斐憲次(筑波大・地球):ピナトッポ火山起源ヨーロッパの等位面トラジェクトリー解析

雲物理・メソ対流系

座長:楠原 均(気研・台風)

- D201 播磨屋敏生・佐々木 聰(北大・理), 藤吉康志(名大・水圏研), 山田 正(中大・理工), 稲毛正昭(三井建設):立坑を用いた雲物理実験装置内で発生した雲の微物理過程(その1) — 雲物理実験装置の特性
- D202 佐々木 聰・播磨屋敏生(北大・理), 藤吉康志(名大・水圏研), 山田 正(中大・理工), 稲毛正昭(三井建設):立坑を用いた雲物理実験装置内で発生した雲の微物理過程(その2) — 雲粒の生成・成長過程
- D203 菊地信行・早坂忠裕・田中正之(東北大・理), 石坂 隆(名大・水圏研):奄美大島近海で観測された雲の粒径分布
- D204 中島 孝・中島映至(東大・気候システム):気象衛星リモートセンシングを利用した雲微物理特性の広域解析
- D205 沖 大幹・虫明功臣(東大・生産研), 椎貝博美(筑波大・構造工):マレーシア・クチンでの雨滴粒径分布観測速報
- D206 鈴木賢士・高橋 劭(九大・理):冬季モンスーン地域(タイ・ソンカラ 7°N, 101°E)における降水機構 — 特殊ビデオゾンデ(PPIS)による観測
- D207 高橋 劭・遠藤誠美(九大・理):熱帯対流雲の降水と対流活動に及ぼす微物理過程 — モデル計算
- D208 山田哲二(Yamada Science & Art):3次元アンサンブル雲物理モデル
- D209 川端隆志・遠峰菊郎・阿部博文・落合 健・小滝 昇(防大・地球):三沢市における海霧の構造について
- D210 越田智喜(名大・水圏研):冬季東シナ海における混合層頂での不安定成層と雲の比較
- D211 森 一正(気研・台風), T. D. Keenan (BMRC):沿岸域で発生したオーストラリアモンスーン降水系の構造と時間変化
- D212 赤枝健治(気研・台風):孤立した地形の風下で発生する長寿命対流雲群について
- D213 中井専人(防災科研), 田畑 明(気象庁・予報), 山田芳則・岩崎博之・楠原 均(気研):亜熱帯中規模対流系の鉛直構造の解析
- D214 高橋暢宏・上田 博・菊地勝弘(北大・理):直交二偏波ドップラーレーダーで観測した孤立エコーの発達過程について

大会第3日〔5月26日〕 09:00~12:00

A会場

B会場

年々変動

座長：栗原弘一（気象庁・長期予報）

- A301 宮崎保彦（気象衛星センター）：夏季の熱帯の対流活動と日本付近の大気循環
- A302 岩坂真人（東京商船大）、Y. Zhang, J.M. Wallace (Univ. Washington)：エルニーニョ現象の北半球大気大循環および北太平洋海面水温変動へ与える影響の再評価
- A303 磯部英彦（気象庁・長期予報）：熱帯の海面水温と対流活動および日本の天候の関係についての再考察～盛夏期～
- A304 保坂征宏・林 祥介（東大・理）：熱帯域にある局所的な暖水域が大気に与える影響（第4報）
- A305 林 久美・高野清治・渡部文雄（気象庁・長期予報）：1993年夏の亜熱帯ジェットの特徴
- A306 酒井重典・栗原弘一・林 久美（気象庁・長期予報）：1993年夏の北半球高度場の持続
- A307 渡部文雄・林 久美（気象庁・長期予報）：1993年夏の西部太平洋の対流活動
- A308 高野清治（気象庁・長期予報）、小泉 耕（気研・予報）：WAVE ACTIVITY FLUXで見た盛夏期日本付近に見られる波列パターンの年々変動
- A309 小出 孝・二階堂義信・佐藤康雄（気研）：Isentropic Dynamicsによる大気大循環場の解析—93年夏のCase Study—

モンスーン

座長：萬納寺信崇（気象庁・数値予報）

- A310 松本 淳（東大・地理）：熱帯における雨季の開始・終了のグローバルな分布
- A311 井上豊志郎（気研・台風）：アラビア海における海面温度、水蒸気量とインド南部における対流活動について—1987、1988年夏期について—
- A312 二宮洗三（気象庁）、小林ちあき（気象庁・数値予報）：水蒸気流束分布からみた1991年夏季モンスーンの時間的变化
- A313 安成哲三・今泉美菜子・谷田貝亜紀代（筑波大・地球）：アジア/オーストラリアモンスーンに伴う水蒸気収支の季節変化
- A314 谷田貝亜紀代・安成哲三（筑波大・地球）：ユーラシア大陸内陸における夏季の降水と水蒸気輸送
- A315 富田智彦・安成哲三（筑波大・地球）：ENSO/モンスーンシステムの2年周期振動に及ぼす北半球冬季北東モンスーンの影響について
- A316 杉 正人・川村隆一（防災科研）、佐藤信夫（気象庁・数値予報）：気象庁全球モデルの34年ランでシミュレートされた夏のアジアモンスーンの年々変動
- A317 鬼頭昭雄（気研・気候）：ユーラシア大陸の積雪とモンスーン/海面水温

境界層

座長：近藤裕昭（資源環境研）

- B301 米谷俊彦・柏木良明（岡山大・資源生物研）：植物群落上の乱流特性について(31)
- B302 鱧谷 憲・内田洋平・文字信貴（大阪府大・農）：簡易渦集積法の森林CO₂フラックス測定への適用
- B303 劉 小虎（岡山大・自然）、土居由佳・伊藤はる奈（岡山理大）、大滝英治（岡山大・教養）：顕熱と潜熱輸送による二酸化炭素フラックスの補正
- B304 花房龍男・加藤真規子（気研）、青木和久（中国電力）、伊藤芳樹（カイジョー）、竹内清秀（気象協会）、矢部一郎（原子力安全協）：複雑地形上におけるドップラーソーダ観測値について—風洞実験による検証—
- B305 加藤真規子・花房龍男（気研）、青木和久（中国電力）、伊藤芳樹（カイジョー）、竹内清秀（気象協会）、矢部一郎（原子力安全協）：複雑地形上における乱れのスペクトル—風洞実験と野外観測の比較—
- B306 足立樹泰・津田敏隆・橋口浩之・深尾昌一郎（京大・超高層）：RASSによる赤道域境界層の温度観測
- B307 橋口浩之・津田敏隆・足立樹泰・堤 雅基・下舞豊志・吉野謙晃・深尾昌一郎（京大・超高層）、D. L. Tobing, Sri Woro B. H. (BPPT), H. Wiryosumarto (LAPAN)：境界層レーダーによるインドネシア赤道域乾季・雨季キャンペーン観測
- B308 薄生 稔（資源環境研）：砂漠の混合層（その6）
- B309 神田 学・立川貴一（山梨大・工）：積雲-混合層-地表面相互作用に関する数値実験

座長：神田 学（山梨大・工）

- B310 半場藤弘（東大・生産研）：大気境界層の非局所的な乱流拡散
- B311 高橋俊二・伍 培明（気研・応用）：円形の島に吹く海陸風
- B312 浦野 明・森川泰成（大成建設・技術研）：関東地方の局地風に及ぼす都市の規模の効果
- B313 島貫 陸・小林弥生（東京学芸大）：ヒートアイランドの簡易シミュレーション
- B314 余 偉明（電通大）、W. L. Physick, P. Manins (CSIRO)：南オーストラリアにおけるAdelaide Gully Wind (Severe Downslope Wind)に関する数値実験（その2）
- B315 川村 宏（東北大・理）：衛星観測による1989年7月上旬のヤマセの研究
- B316 松尾親弥（福島大・教育）：清川ダシの特性
- B317 桑形恒男（東北農試）、木村富士男（東北大・理）：伊那谷で観測された日中の谷風循環の構造

大会第3日〔5月26日〕 09:00~12:00

C会場

D会場

エアロゾルI

座長:秋吉英治(福岡大・理)

- C301 Y. Ishizaka, P. S. Sarwono (名大・水圏研): FREEZING POINTS OF AEROSOL SIZE ACID DROPLETS UNDER STRATOSPHERIC CONDITIONS (II)
- C302 林 政彦・岩坂泰信(名大・STE研), 土屋政義・葛西 武(シグマテック): 成層圏エアロゾル観測用レーザーエアロゾルゾンドの開発[S]
- C303 林 政彦・岩坂泰信(名大・STE研), 石坂 隆, P. S. Sarwono (名大・水圏研), Sri Kaloka, Slamet Saraspriya(LAPAN): インドネシアにおける成層圏エアロゾルおよびオゾン気球観測 — インドネシアとの国際共同観測: 速報 —
- C304 岩坂泰信・林 政彦・長谷正博・中田 澁・松永捷司・長田和雄(名大・STE研), 中根英昭(国立環境研), 宮川幸治(高層気象台), 沼田典之(エアロゾル研), 土屋政義(シグマテック): オゾンとエアロゾルの同時観測(速報); 大洗, 1993年12月[S]
- C305 岩坂泰信・林 政彦・柴田 隆・長谷正博・中田 澁・小塩哲朗(名大・STE研): ピナツポ・エアロゾルによる成層圏気温の擾乱 — ライダーとゾンドの観測データの比較 —
- C306 伍 培明・岡田菊夫・田中豊順・佐々木 徹・永井智広・藤本敏文・内野 修(気研): ゴム気球を用いた成層圏ピナツポエアロゾル粒子の直接採集
- C307 安井元昭(九大・理), 井川誠司・秋吉英治・藤原玄夫(福岡大・理): 福岡大学ライダーによるピナツポ火山起源エアロゾルの観測
- C308 杉田考史・近藤 豊・小池 真・中島英彰(名大・STE研), R. Salawitch(Harvard大), P. Aimeidieu(CNRS): 成層圏空素酸化物におよぼす不均一反応の効果 — 気球観測とモデル —
- C309 秋吉英治(福岡大・理), 内野 修(気研・衛星): ピナツポエアロゾル層による大気微量成分濃度と温度の時間変化 — 1次元放射-光化学モデル —
- C310 仙波秀志・羽角博康・中島映至(東大・気候システム), 佐々木秀行(気象衛星センター): ピナツポ火山噴火に伴う成層圏汚染 GMS/VISSRによるリモートセンシングデータの解析
- C311 中島映至(東大・気候システム), 趙 鳳生(中国大気物理研), 中島 孝(東大・気候システム), 日暮明子(東北大・理): 衛星搭載可視, 赤外放射計を用いた雲・エアロゾルのリモートセンシング
- C312 柴田清孝(気研・気候): PDHモデルによるピナツポ火山エアロゾルの成層圏に及ぼす影響評価

エアロゾルII

座長:古賀聖治(資源環境研)

- C313 岩坂泰信・梅 成顔・柴田 隆・林 政彦・長谷正博・中田 澁・森 育子・小塩哲朗(名大・STE研): エアロゾル層の湿度分布
- C314 黄 哲薫(筑波大・院), 甲斐憲次(筑波大・地球), 塩原匡貴・財前祐二(気研), 光田 寧(京大・防災研): 東アジアの沙漠地域におけるエアロゾルの光学的厚さの季節変化(2)
- C315 甲斐憲次(筑波大・地球), 大武広海(筑波大・自然), 日置江 桂(筑波大・環境), 阿保 真(都立大・工), 村山利幸(商船大・物理): ライダーネットワークによる東京エアロゾル層の観測[S]
- C316 藤谷泰資(イオン情報研・神戸電波), 戸谷佳武(神戸電波): 台風9313号通過後の環境大気イオン分布密度の変動
- C317 遠藤辰雄(北大・低温研), 高橋庸哉(北海道教育大), 村本健一郎・中川千枝(金沢大), 野口 泉(道環境科学研究センター): 降雪粒子の酸性化機構(その3)
- C318 皆巳幸也・石坂 隆(名大・水圏研): 乗鞍岳における霧水の粒徑別化学組成に関する観測(3) — 霧発生初期の霧水の組成についての考察 —

メソ擾乱

座長:上田 博(北大・理)

- D301 川野哲也・宿里貴美・田中 猛・高橋 劭(九大・理), 山口栄次・郷田治稔(気象庁・数値予報): 鹿児島豪雨(7月31日, 8月6日)のレーダー解析を中心とした一考察
- D302 荒生公雄(長崎大・教育), 武田喬男・藤吉康志(名大・水圏研): 雲仙岳に火山性土石流を発生させた1993年の降雨の特徴
- D303 横田寛信(気象庁・予報): 「淀川チャンネル型大雨」におけるback buildingの発生トリガー
- D304 渡辺 明(福島大・教育), 上田 博(北大・理), 山中大(京大・超高層), 住 明正(東大・気候システム): 梅雨前線のMeso構造VI
- D305 斉藤和雄(気研・予報), L. Thanh・金田幸恵・武田喬男(名大・水圏研): 紀伊半島の降雨量分布に対する地形の効果 part II (一般風に対する地形の効果の数値シミュレーション)
- D306 永田 雅(気象庁・数値予報): 関東平野の沿岸前線とこれに関連する降水の集中 — 数値モデルによる予報実験 —
- D307 岩崎博之(気研・台風): 可降水量のメソスケール分布の事例解析
- D308 立平良三(電通大), 鈴木 修(気研・衛星), 笠原塔子・村田行泰(電通大): ドップラーレーダーによるシャーライン周辺の3次元風速場
- D309 中村健治(通信総研): つくば域降雨観測実験
- D310 吉崎正憲・瀬古 弘(気研・台風): 「つくば域降雨観測実験」において観測された局地前線について
- D311 高野 功(気研・予報): つくば域降雨観測実験での北東気流系の悪天について('93年10月1日の事例)
- D312 瀬古 弘・吉崎正憲(気研・台風): 「つくば域降雨観測実験」で観測された秋雨前線の3層構造
- D313 栗原和夫(気研・予報): 「つくば域降雨観測実験」 — 台風刺激された前線
- D314 山田真吾・鈴木和史(気象庁・予報): 日本の東海上で急発達する低気圧の特徴: 統計的調査
- D315 鈴木和史・山田真吾(気象庁・予報): 日本の東海上で急発達する低気圧の特徴: 衛星画像での分類
- D316 榊原 均・岡村博文・赤枝健治・森 一正・島津好男(気研・台風), 田畑 明(気象庁・予報), 石原正仁(気象庁・測候): 宮古島で観測された成熟期台風の降雨帯の構造
- D317 島津好男(気研・台風): 台風8913号の降雨帯の解析 その2 — デュアルドップラーレーダー解析 —
- D318 板野裕久(京大・防災研), 藤井 健(京都産業大・教養), 光田 寧(京大・防災研): 中緯度の台風に伴うPressure Dipの解析
- D319 岡村博文・山崎信雄・高橋清利(気研・台風): 北上する台風の南西象限にあたる下部成層圏で観測した内部重力波
- D320 藤井 健(京都産業大・教養), 光田 寧(京大・防災研): 台風9313号の本土上陸後の気圧と傾度風速の分布の特性

A会場

B会場

気候モデル

座長: 岩崎俊樹 (気象庁・数値予報)

- A351 沼口 敦・光本茂記(国立環境研), 高橋正明・熊倉俊郎・中島映至・塚本雅仁・住 明正・松野太郎(東大・気候システム), 江守正多(東大・教養): CCSR/NIES大気大循環モデルの気候値(第2報)
- A352 塚本雅仁・中島映至(東大・気候システム): k-distributionのチャンネル最適化による大循環モデル用放射コードの高速化
- A353 中島映至・塚本雅仁(東大・気候システム), 沼口 敦(国立環境研), 熊倉俊郎・高橋正明・住 明正・松野太郎(東大・気候システム): CCSR/NIES大循環モデルにおける放射収支の様相
- A354 尾瀬智昭(気研・気候): 月平均地球放射収支から求めたCloud factor
- A355 北川裕人・岩崎俊樹(気象庁・数値予報): 衛星データを用いた全球予報モデルの検証
- A356 隈 健一(気象庁・数値予報), Cho C.-H.(韓国気象庁): 積雲対流スキーム変更による全球予報モデル結果へのインパクト
- A357 時岡達志・野田 彰・中川慎治・鬼頭昭雄・二階堂義信・本井達夫・行本誠史(気研・気候): MRI-CGCMによるCO₂漸増実験(1)
- A358 時岡達志・野田 彰・中川慎治・鬼頭昭雄・二階堂義信・本井達夫・行本誠史(気研・気候): CO₂漸増実験の基準実験における海水のふるまいについて
- A359 岩朝美晴(中京学院大・経営), 阿部 豊(東大・理), 田中 浩(名大・水圏研): 放射対流平衡の直接計算(5)
- A360 酒井孝太郎・W. R. Peltier (Univ. Toronto): 大西洋熱塩循環の長周期振動: 更新世気候変動との関連[V]

大循環・総観規模現象

座長: 小出 孝(気研・気候)

- A361 伊藤久徳(和歌山大・教育), 木本昌秀(気研・気候): 現実的な地形を持つ傾圧準地衡風モデルにおけるカオスへのルートと天候レジームの力学的根拠
- A362 佐藤正樹(埼玉工大): 軸対称実験と非軸対称実験の比較による大循環の角運動量収支
- A363 木村和央・長谷川 聡・早崎将光・田中 博(筑波大・地球): ECMWF客観解析データの3次元ノーマルモード関数展開によるエネルギー解析 — 1988/89年北半球冬季に関して —
- A364 長谷川 聡・田中 博(筑波大・地球), 田口彰一(資源環境研), 平口博丸・筒井純一(電力中研): NCAR/CCM-2のスペクトルエネルギー解析(2)
- A365 早崎将光・田中 博(筑波大・地球): 1989年冬季アラスカで発生した対流圏における突然昇温の解析
- A366 中村 尚(東大・理): 北半球冬季の強い準停滞性低気圧性擾乱の時間発展
- A367 上野健一(筑波大・地球): 北極域を中心とした低気圧活動分布
- A368 寺尾 徹(京大・防災研): 夏季北半球中高緯度にみられる季節内変動のグローバルな特徴について

境界層(つづき)

座長: 高橋俊二(気研・応用)

- B351 田中博春・三上岳彦(都立大・理): ハッ岳山麓にみられる高温層について — 小気候観測の結果から — [S]
- B352 星川和俊(信州大・教養): 気温逆転現象の統計的特性について — 長野県中央部の山岳域を含む地域気象特性に関する研究(2) —
- B353 近藤裕昭(資源環境研): 関東平野への冷気の蓄積と解消の数値実験
- B354 安東義彦(新東京航空): 関東内陸に生じる滞留寒気塊
- B355 森 牧人・小林哲夫・竹下明宏(九大・農), 武政剛弘(長崎大・地域共同研究センター): 長崎市中心部における夜間の局地気象観測(4)冷気湖の発達と斜面下降風の風向変化
- B356 土田 誠(筑波大・環境), 吉門 洋(資源環境研): 関東南部における冬季の海風の振るまい
- B357 船越帝志(気象庁・統計): 平年値にみる都市化
- B358 伊藤政志・宇田川 満(東京大環境研), 三上岳彦(都立大・理), 神成陽容(計量計画研): 東京のヒートアイランドについて
- B359 甲斐憲次(筑波大・地球), 糸賀勝美(筑波大・自然): 環八雲の発生条件に関する気候学的研究

座長: 島貫 陸(東京学芸大)

- B360 藤野 毅・黒川 湖・浅枝 隆(埼玉大): ストリートキャニオン内の熱環境の現地観測
- B361 Vu Thanh Ca(埼玉大・工), 柴原千浩(東京電力), 浅枝隆(埼玉大・工): ストリートキャニオン内の気温及び壁面温度の解析
- B362 木内 豪(土木研), 神田 学(山梨大・工), 栗城 稔・小林裕明(土木研): 都市内散水が局地気象に及ぼす影響の観測
- B363 山本育子・鈴木義男・桃井和好(気象協会): 熱的低気圧の発現と濃尾平野の風系
- B364 川島茂人(農業研究センター): 広域的なスギ開花日の推定方法 — スギ花粉の拡散過程に関する研究 — [S]
- B365 小林文明・内藤玄一・都築信明(防大・地球): ドップラーソーダーによる三浦半島東岸の大気観測(3) — 強い北西季節風時の下層風系 —
- B366 都築信明・小林文明・内藤玄一(防大・地球): ドップラーソーダーによる三浦半島東岸における大気観測(4) — 夏季における内陸低気圧と南風との関係(2) —

気象教育

- B367 高橋庸哉(北海道教育大), 廣野達也(札幌市福移中), 鈴木宏宣(札幌市米里小): 学校教育における気象情報活用
- B368 廣野達也(札幌市福移中), 高橋庸哉(北海道教育大), 土田幹憲(札幌市福移小), 鈴木宏宣(札幌市米里小): 気象情報を活用した教育実践

大会第3日〔5月26日〕 13:30~16:30

C会場

D会場

エアロゾルII (つづき)

座長: 古賀聖治 (資源環境研)

- C351 松永捷司・岩坂泰信・村井康造・長田和雄・林 政彦・森育子・坂東知子 (名大・STE研): 揮発性硫黄化合物の若狭湾上空での鉛直分布[S]
- C352 速水 洋・藤田慎一 (電力中研): 海洋気象ブイデータによる, 海上のSO₂乾性沈着速度の推定
- C353 松岡静樹 (北大・環境), 菊地勝弘・上田 博・遊馬芳雄 (北大・理), 泉 裕明 (北大・環境): 冬季節節風発達時の海岸でのエアロゾル濃度の変動(III)
- C354 三浦和彦・近藤和広・緒形季之・中江 茂 (東京理大・理): 西太平洋上で捕集した個々の海塩粒子の化学組成について
- C355 牧野行雄・池上三和子・堤 之智・財前祐二・岡田菊夫・井上久幸・松枝秀和・二階堂義信(気研), J. Gras, J. Jensen, B. Ryan, B. Embleton (CSIRO), I. Kristament (NIWA): 西太平洋域大気化学観測実験 (PACE-1) について
- C356 財前祐二・池上三和子・堤 之智・牧野行雄・岡田菊夫(気研), J. Jensen, J. Gras (CSIRO), I. Kristament (NIWA): 航空機による西太平洋域のエアロゾル粒径分布の測定
- C357 池上三和子・岡田菊夫・財前祐二・堤 之智・牧野行雄(気研): 中部対流圏におけるエアロゾル組成の空間変動(サイパン-仙台)

オゾン

座長: 柴崎和夫 (國學院大・文)

- C358 堤 之智・牧野行雄・松枝秀和 (気研), J. Jensen (CSIRO): 航空機によるオーストラリアから日本までの対流圏オゾンの観測
- C359 堤 之智・財前祐二・牧野行雄(気研・物理), 富士山測: 富士山頂における対流圏オゾンの観測
- C360 佐藤公喜 (愛知県公害調査センター): 成層圏起源オゾンが地表付近のオゾン濃度変動に及ぼす影響
- C361 村松久史 (京大・防災研): 中国砂漠地域の地上オゾンの日変化・季節変化
- C362 箕浦宏明・美澤史帆 (豊田中央研): 地上付近のオゾン濃度観測
- C363 栢原孝浩・鮎川江里香・廣岡俊彦・宮原三郎(九大・理): 大気大循環モデルを用いたオゾンのシュミレーション
- C364 佐々木 徹 (気研・物理): 不均一反応モデルによるピナトッポ噴火に伴うオゾン変化の経年変化実験
- C365 川平浩二・新田 亘 (富山高専), 廣岡俊彦 (九大・理): 南極オゾンホールを水平構造の最近の変動
- C366 柴崎和夫 (國學院大・文): NIMBUS7/TOMSとドブソン分光計オゾン全量データの比較 — 高緯度帯を中心に —

観測手法・測器

座長: 菲澤 浩 (気研・衛星)

- D351 牛山素行 (岐阜大・連合農), 田中博春 (都立大・理): 簡易気温観測手法の精度について
- D352 鈴木立郎・安部大介・竹内謙介 (北大・低温研): 赤道太平洋での光学雨量計の有効性について
- D353 藤谷徳之助・萩野谷成徳・森 一正 (気研): COARE-IOPにおける雨量観測について
- D354 森 征洋・宮下晃一(香川大・教育), 林 泰一・光田 寧 (京大・防災研): 風車型風向風速計の自然風中における特性について
- D355 森 修一 (日本エシステム): 航空機搭載型Windshear Alert System運用評価調査結果について
- D356 橋口浩之・津田敏隆・足立樹泰・堤 雅基・下舞豊志・吉野謙晃・深尾昌一郎(京大・超高層), Sri Woro B.H. (BPPT), H. Wiryosumarto (LAPAN): インドネシア赤道域における境界層レーダーとラジオゾンデの比較観測
- D357 大野裕一・増田悦久・中村健治 (通信総研): CRLウィンドプロファイラとオメガゾンデとの比較観測実験(2)
- D358 阿保 真・長澤親生・君山健二 (都立大・工), 内野 修 (気研・衛星): 水蒸気測定用高精度差分吸収ライダーの開発
- D359 市川隆一・笠原 稔 (北大・理), 萬納寺信崇 (気象庁・数値予報), 内藤勲夫 (国立天文台): 10km格子・地域モデルデータに基づく大気電波伝搬遅延量の評価

衛星マイクロ波データ利用

座長: 中澤哲夫 (気研・台風)

- D360 早坂忠裕・滝沢 巖・田中正之 (東北大・理): 大気のマイクロ波放射特性に及ぼす散乱の効果について
- D361 宮本一彦・内藤玄一 (防大・地球), 佐々木保徳・中村 亘 (海洋セカ), 小山 登 (国際気象海洋): SSM/Iデータを用了熱帯降雨域のリモートセンシング
- D362 本藤亮太郎・江淵直人・川村 宏 (東北大・理): SSM/I観測による冬季日本海上の可降水量分布と海面水温場との関係
- D363 青梨和正・柴田 彰 (気研): マイクロ波放射計データの数値予報モデルの水蒸気場へのデータ同化について
- D364 勝俣昌己 (北大・環境), 上田 博・菊地勝弘(北大・理): NOAA/AVHRR及びSSM/Iを用了北海道西岸帯状雲の構造の解析
- D365 佐々木秀行 (気象庁・数値予報): 衛星風の数値予報へのインパクトについて
- D366 中澤哲夫 (気研・台風): ERS-1/AMI海上風データとATLAS, GANALとの比較
- D367 江淵直人 (東北大・理): 冬季日本海における筋雲の離岸距離と海上風速の関係

大会第1日〔5月24日〕

ポスター・セッション

概要紹介 16:10~16:30; 講演 16:30~17:30

() は講演者)

座長: 小司楨教 (気象庁・予報)

- P101 藤部文昭 (気研・予報): 明治~昭和初期との比較から見た都市高温化の時間的特性
- P102 山本有子・鈴木義男・桃井和好 (気象協会): 熱的低気圧の発生頻度
- P103 水間満郎 (京大・原子炉): 紀伊水道, 大阪湾, 播磨灘, 燧灘とその周辺陸域の海陸風
- P104 高橋日出男 (広島大・総合科学): チベット高原東側に出現する梅雨季の低温域について
- P105 山本 哲 (気研・応用): 南極昭和基地における放射ゾンデ観測値の再検討
- P106 青木輝夫・青木忠生・深堀正志 (気研・物理), 瀬古勝基 (名大・水圏研): 積雪表面及び内部の分光観測
- P107 S. Kinne (NASA), M. Shiobara (気研・気候), T. P. Ackerman (Penn. State Univ.), J. J. DeLuise (NOAA): Comparisons of solar radiative fluxes between theory and observations during FIRE Cirrus IFO' 91
- P108 佐藤晋介 (北大・低温研), 藤吉康志 (名大・水圏研): 冬季季節風の吹き出し方向に直交する筋状雲の構造
- P109 児玉安正・山田広幸 (弘前大・理): 東北画像データベース (TIDAS) を用いた季節風時の降雪雲の統計解析
- P110 城尾泰彦・宮本仁美・香川岳宏・林 洋一・長井秀樹・石井一雄 (気象庁・測候): 気象庁による大気バックグラウンド汚染観測
- P111 沼口 敦 (国立環境研): ハドレー循環の渦度収支と角運動量収支
- P112 B. F. Chao (GSFC, NASA), 内藤勲夫 (国立天文台), H. T. Wu (Appl. Res. Corp.), 菊地直吉 (国立天文台): ウェイブレット変換によるLODとAAMの周期構造の解析
- P113 田中 実 (気研・台風): GMS上層雲量によるアジア・西太平洋上における夏季モンスーンの年々変動 — EL NINOとの関係 —
- P114 川村隆一・杉 正人 (防災科研), 佐藤信夫 (気象庁・数値予報): 西太平洋・東アジア地域の降水量の季節変化 — 気象庁全球モデルによる再現 —
- P115 福山 薫, SANGA-N. K. (三重大): アフリカ熱帯雨林域における相対湿度の経年的減少
- P116 鈴木宏宣 (札幌市米里小), 廣野達也 (札幌市福移中), 高橋庸哉 (北海道教育大): 気象衛星「ひまわり」画像教育用表示ソフトウェアの開発
- P117 下田晋也・山形斉子 (気象協会), 田中 博 (筑波大・地球): 気象庁のリアルタイムGPVを用いた火山灰追跡モデルの開発

ポスター講演者へのお願い: 概要紹介は1件1分以内です。ポスターには表題と発表者名を明記して下さい。

大会における講演のあり方について

現行の講演申込要領では、口頭発表の件数について「1講演者1件、ただし独立した内容の研究については第1種講演1件の追加可」、第2種講演の要件については「よくまとまった段階の研究であり、予稿には結論またはまとめの章があること」という規定があります。これらは、発表数が年々増加する状況のもとで、各人の講演時間や講演数を制約しながらも、完成度の高い研究に対しては相応の発表時間を保証することを目的として設定されたものです。

しかし、いずれの規定にも主観的な要素があるため、その趣旨がなかなか徹底しないのが実情です。申込件数については、独立した内容の判断に迷うことが少なくありません。また第2種講演については、形式上は「まとめ」の章があるものの内容的には明らかに中間報告の性格を持つ原稿も現れるようになり、第2種の予稿を講演企画委員がチェックして第1種講演へ振り替える現行の方式には限界が見え始めています。このため今後の対応として、講演企画委員会では講演申込規定を以下の方向で改めることを検討しています。

1. 口頭・ポスター発表とも、1講演者について1件以内とする

(従って合計2件以内)。

2. 第2種講演は論文・報文として印刷されることを前提とする。このため、その申込には投稿雑誌名等(学位論文等でも可)の記入を求める。

講演企画委員会では、このような改定方針について会員各位からのご意見を伺うため、大会会場でアンケートを行う予定です。ご協力をお願いします。また、郵送による意見表明も歓迎します(宛先: 気象研究所予報研究部内 講演企画委員会)。これらのご意見を参考にしながら講演申込規定の改定案を作り、理事会に諮った上で、1995年度春季大会から実施したいと考えています。

なお、大会のあり方そのものについても講演企画委員会で議論を重ねていますが、なかなか明確な方向性を見出せないのが現状です。取り合えず、1994年度秋季大会からスペシャル・セッションの実施要領を改めることになりました(「天気」2月号参照)。より長い時間スケールから見た大会のあるべき姿についても、ぜひ建設的なご意見をお寄せ下さい。

1994年3月 講演企画委員会